

くらし・営業を応援する政治の実現に全力



大山とも子都議、田村智子都副委員長とともに、景気対策について訴えました(新宿駅東口・11月22)

日本経済を元気にする道は、大企業優先・アメリカいいなりをやめ、「政治の中身を変える」ことです

株価の下落、異常な円高、景気後退…。アメリカ発の金融危機から日本経済を救うため、日本共産党と富田なおきはくらし営業重視の日本経済に転換を求める「緊急経済提言」をお届けし、経済界、商店街、首長、町会など各界の方々との懇談を進めています。

「ばくち経済」破たんのツケを国民にまわしてはならない

トヨタ自動車六千人、いすゞ千四百人、マツダ千三百人…景気悪化を口実に、大企業が派遣社員などの大量首切りを開始しました。解雇される派遣労働者の多くは若者です。年末、この寒空に放り出すようなとは許せません。さらに、大企業は中小企業への下請け単価を切り下げ、大銀行は貸し渋り貸しはがしを推し進めています。景気後退といっても、大企業は「E・バブル」といわれた二〇〇〇年度を上回る利益をあげており、雇用を守る体力は十二分にありません。いまこそ、政府は大企業が雇用を守る社会的責任を果たすよう指導・監督を行うべきです。

日本経済の抜本的な体質改善を！ 外需だのみから内需主導へ

足腰の強い日本経済をつくるためには、経済政策の軸足を、大企業から家計へ移すことが肝心です。日本経済を「輸出だのみから内需主導」へ体質改善を図ることこそ、経済活性化の道です。

日本共産党は、国民のくらしを支える経済政策として次の五つ（派遣労働などの使い捨て労働を規制し、安定した雇用を保障すること、安心できる社会保障でくらしを支えること、農林漁業と中小企業への支援の抜本的強化、消費税増税ストップと食料品の非課税、庶民減税の実施、大企業優先とアメリカいいなり政治をやめ、内需拡大政策の財源をつくること）を提案していきます。

「くらしよに政治を変え、景気回復も実現しましょう！」



あぞみ民栄新宿区議と神楽坂商店街の店を訪問し、お話をうかがいました

↑11月21日

麻生首相、さらに大企業・大銀行応援ですか!? 「給付金」について、強い批判の声が広がっています。麻生首相の「追加経済対策」は、それだけではありません。大企業に、新たに設備投資減税などを追加し、大株主のための「証券優遇税制」も3年間延長です。アメリカ大手金融機関の後を追って、「カジノ経済」に手を染める大銀行などにも10兆円の税金を投入する計画も。景気回復に必要なのは、大企業・大銀行応援でなく、くらしと営業の支援です。

十一月二二日、あぞみ民栄区議とともに神楽坂商店街を訪問しました。

消費税が10%になったら大きいですね、厳しいです。「親の代から続いている店をつぶしたくないから、がんばっている。固定客があるというても、不景気では売上げは伸びない」など、景気や街のことで、貴重なお話を伺いました。あらためて、冷え込んでいる家計と営業に光をあてることの大切さを実感しました。いまこそ、小手先の対策でなくくらしと営業を応援する経済政策への転換が必要です。政治の中身を変えるため、力をあわせましょう。

日本共産党衆議院東京1区 国政対策委員長・若者相談室長



富田なおき
事務所ニュース

13 2008.12.7
発行：富田なおき事務所
〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail: tomita-naoki@nifmail.jp

消費税増税ストップ！ 不況だからこそ庶民減税の実施を



「三年後に消費税を増税するなんて許せません署名」協力を」
新宿区小滝橋 11月16日

「給付金は一律やめにしてもらいたいです」「孫が就職できない世の中じゃ困る」 多くの方の率直な思いです。しかし、麻生首相の経済政策では、景気は悪くなるばかり。

一方、欧州連合（EU）は二六日、「欧州経済回復計画」を発表し、EU各国に消費税（付加価値税）や労働者の所得税減税を勧告しました。英国では二四日、金融危機に対応し、消費税（付加価値税）を期限付きで二・五％下げ、高額所得者の最高税率を引上げる等の経済対策を決定。英国政府は、消費税減税について「全員を支援する最良で最も公平な方策」「商品とサービスを安くし、消費を促進し成長を刺激する」と強調しています。増税は景気を悪化させます。消費税増税反対の大きな世論をともにつくりましょう。



佐藤佳一さん新宿くらしの相談室長と消費税反対署名を訴えました
新宿区小滝橋 11月16日



労働者後援会のみなさん、谷川智行さん（衆院比例東京ブロック）と、オフィスに向かうサラリーマンに訴えました（東京駅丸の内北口・11月28日）



近藤なつ子新宿区議とともにマイクを握りました
（新宿区戸山ハイツ・11月13日）



熊田ちづ子港区議とともに、「赤旗」日曜版の購読をお願いにあがりました
（港区・11月30日）

日本共産党との出会い 入党を決意

政治や社会に関心をもちはじめたのは中学生のときでした。ちょうど消費税導入やリクルート事件、天安門事件の頃です。父の帰宅が毎日深夜になるのをみて、「こんな世の中何とかならないかな」という思いがありました。家に届けられたピラをみて、「投票するなら、汚い金と無縁の共産党」と思ったのも、この頃です。もうひとつ、母

が高校の恩師から聞いたという話。「共産党は、戦前、命がけで侵略戦争に反対した党なんだよ」この言葉も強く印象に残っています。大学生になり東京にきてきて、中央委員会に「赤旗」の購読を葉書で申込みました。また、第二〇回党大会決定を読んでみると、「ソ連崩壊や小選挙区制でお先真っ暗な党だと思っていたのに、

地方議員数は第1党だと書いてあるし、意気軒昂だ」と思いました。

大学三年の九月に民青同盟に加盟しました。知り合った共産党員はみんないきいきとして魅力的でした。

政治や経済を学ぶなか、党の路線に疑問はまった



くありませんでしたが、入党を勧められたとき、「党に入ると不利益があるのではないか」とためらいがありました。「不利益というのは、支配層が共産党と国民を分断するため。共産党が多数派になってから、その恩恵を受けるのは虫がいいのではないか」という言葉にグツと考えさせられました。

一九九六年十一月、入党を決意しました。